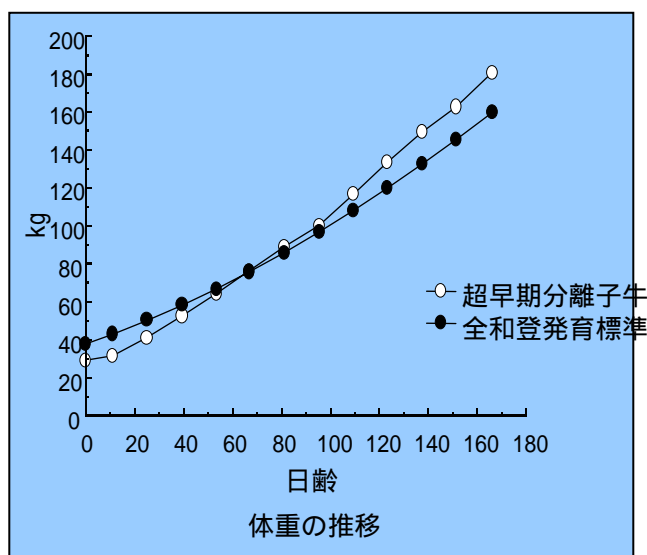


# 超早期親子分離で確実な「1年1産」を達成 子牛の発育も良好

分娩後3日で親と子を分離する方式により、空胎期間は平均66日と1年1産を達成した。同時に、子牛は下痢等の疾病は認められず、増体も平均0.91kg/日とすばらしい成績を示した。

## 目的

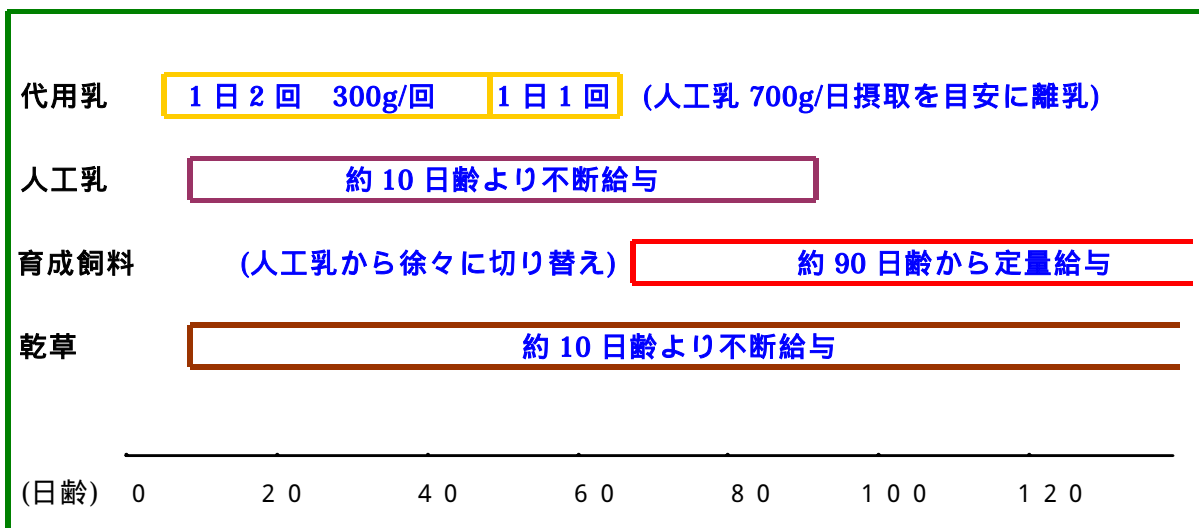
規模拡大が進む繁殖経営では、母牛の空胎日数の短縮と子牛の損耗を防ぐ(特に下痢の予防)ことが技術課題とされている。そこで、母牛の繁殖管理と子牛の健康管理をおこなうために、母牛と子牛を生後3日目で分離し、子牛はカーフハッチで単飼する、超早期親子分離をおこなった。



約70日齢から標準値を上回る発育



カーフハッチによる飼育風景



子牛育成プログラム